

**地方独立行政法人福岡市立病院機構
平成28年度の業務実績に関する評価結果報告書**

平成29年7月

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会

目 次

はじめに	1
第1項 全体評価	2
第2項 項目別評価	4
(1) 大項目評価	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	8
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	9
(2) 小項目評価	
福岡市立病院機構の概要	13
全体的な状況	15
項目別の状況	22
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 医療サービス	22
2 患者サービス	42
3 医療の質の向上	50
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	62
2 事務部門等の専門性の向上	64
3 意欲を引き出す人事・給与制度等の導入	66
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 経営基盤の強化	68
2 収支改善	72
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 新病院の整備及び運営に関する取組	86
2 福岡市民病院の経営改善の推進	88
第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	90
第6 短期借入金の限度額	90
第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	90
第8 剰余金の使途	90
第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項	91

※ 中期計画においては、第1から第4までの小項目評価の項目は、それぞれ第2から第5となる。

〈参考資料〉

○地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針	93
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領	95

はじめに

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の平成28年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、本評価委員会において、平成22年11月10日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」(93ページ参照)及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」(95ページ参照)に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委員 長	寺 坂 禮 治	福岡市医師会 副会長
副委員 長	福 田 治 久	九州大学大学院医学研究院 准教授
委 員	一 宮 仁	浜の町病院 院長
	花 岡 夏 子	福岡県看護協会 会長
	行 正 晴 實	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及び判断理由

〈評価結果〉

第2期中期目標期間の最終年度である平成28年度の業務実績に関する評価については、すべての小項目評価が「評価3」以上であることから、第1から第4の大項目評価はすべて「評価A」となる。

この大項目評価の結果を踏まえ、福岡市の医療施策として求められる高度専門医療・高度救急医療を提供するため、診療機能の更なる充実・強化に取り組んだこと、また、積極的な増収対策と費用削減により当期純利益を確保したことなどから、平成28年度の業務実績は「中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる」と評価する。

〈判断理由〉

福岡市から独立した法人として、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となった経営体制を構築し、経営管理の徹底を図っている。

福岡市立こども病院においては、小児総合医療施設として、これまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、重症患者の円滑な受入れに取り組んでいる。また、福岡市民病院においては、地域医療計画における4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図るとともに、高度救急医療及び感染症医療の充実に取り組んでいる。経営面では、人員の適正配置や救急患者の受入体制の整備などによる増収対策に加え、費用対効果を考慮した診療材料等の選定や価格交渉の徹底などによる費用削減に取り組んでいる。

このような両病院と運営本部の取組により、市立病院機構全体で2億6,400万円余の当期純利益を確保し、経常収支比率の目標値を達成するとともに、前年度実績を上回る結果となっている。

項 目	評価項目数	ウエイトを考慮した項目数	小項目評価					大項目評価
			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	14	24	2	17	5			A 計画どおり 進んでいる
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	3	3			3			A 計画どおり 進んでいる
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	6	11		2	9			A 計画どおり 進んでいる
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	2	4	2		2			A 計画どおり 進んでいる
合 計	25	42	4	19	19			

全体評価にあたって考慮した内容

〈主な取組や特色ある取組〉

福岡市立こども病院においては、循環器センター、周産期センター及び手術・集中治療センターを中心に、各部門間の密接な連携を図るとともに、重症患者の円滑な受入に取り組んでいる。また、「運動器センター」及び「国際医療支援センター」を設置し、医療機能の強化・充実を図ったほか、小児・周産期医療の更なる発展のため、「臨床研究部」を設置している。

福岡市民病院においては、医療法で定められた医療計画における4疾病への対応を中心に、「脳神経血管内治療部」の新設など診療体制の強化を図るとともに、循環器内科において「不整脈外来」を開始し、高度専門医療の更なる充実を図っているほか、新型インフルエンザ等発生時の事業継続計画(BCP)の整備など、感染症医療の充実に努めている。

両病院ともに地域医療支援病院としての役割を更に高めるため、地域の医療機関を中心に積極的な病病連携・病診連携に努めている。

さらに、災害発生に備え、防災訓練等の実施や非常用発電設備及び備蓄物品等の点検などを徹底したほか、4月に発生した熊本地震において、福岡市民病院は、九州自治体病院災害相互応援協定に基づく救援物資の提供や医療支援班等の派遣を行うとともに、福岡市立こども病院は、ヘリコプター等による救急搬送患者の受入れを行うなど、迅速かつ効率的に対応している。

〈特筆すべき取組〉

両病院ともに外部コンサルタントを活用した診療材料等の調達に係る価格交渉の徹底、契約手法や委託業務の見直しの実施及びジェネリック医薬品の使用拡大などにより、費用削減に取り組んでいる。

福岡市立こども病院においては、効率的な病床管理による病床利用率の向上を図るとともに、重症患者の円滑な受入れに取り組んだ結果、入院収益は前年度を10億円余上回り、76億円余となっている。

その結果、福岡市立こども病院においては、経営に関する3指標(総収支比率、経常収支比率、医業収支比率)の目標をすべて達成し、当期純利益は2億6,300万円余となっており、経営基盤の強化・収支改善が図られている。

評価にあたっての意見、指摘等

〈福岡市立こども病院〉

- ・日本で初めての川崎病センターの設置はオリジナリティーがある。
- ・こども病院の入院単価、外来患者数、救急搬送件数は、年度目標を大幅に上回っている。
- ・一部の実績値が目標値に達成されていない場合においても、経営が大幅に改善されているなどの点を鑑みると、評価を上げることは妥当。
- ・新病院へ移転後、経営の回復を始め、救急患者の受入れや人材確保の取組など、広域的なこども病院として発展してきている。

〈福岡市民病院〉

- ・市民病院は、最先端の医療技術を導入されている。
- ・市民病院のメディカルラリーでの4回の優勝はすばらしい実績。
- ・市民病院の病院指標の作成及び公表は評価すべき取組である。
- ・市民病院の認定看護師の資格取得者数が多く、ケアの質の向上に貢献している。
- ・九州初のMERSの疑似症例患者の受入れや、熊本地震の対応、公立病院経営改革事例集での事例紹介とそれに伴う表彰を受けている点などを評価したい。

第2項 項目別評価

(1)大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

「良質な医療の実践」「地域医療への貢献と医療連携の推進」「災害時等の対応」「患者サービスの向上」「病院スタッフの確保と教育・研修」「信頼される医療の実践」の項目において、年度計画の目標を上回る成果を上げており、全ての項目で年度計画どおり順調に実施している。

評価結果	S	A	B	C	D
	特筆すべき進捗状況にある	計画どおり進んでいる	おおむね計画どおり進んでいる	やや遅れている	重大な改善すべき事項がある

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3～5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項目	評価項目数	ウエイトを考慮した項目数	小項目評価				
			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1 医療サービス	5	9	2	5	2		
2 患者サービス	4	6		4	2		
3 医療の質の向上	5	9		8	1		
合計	14	24	2	17	5		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

「1-(1) 良質な医療の実践 イ 福岡市立こども病院」

川崎病センター及び先天性心疾患の手術症例数は全国一位という成果をあげている。また、患者の増加等に対応した病床再編や既存のセンター並びに診療科における連携強化を図りながら、運動器センターや国際医療支援センターを新設するなど、良質な医療の提供を目指した取組がなされ、結果、1人1日当たり入院単価、新規入院患者数、救急搬送件数の大幅な伸びを見せていることを高く評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア 福岡市立こども病院」

地域医療支援病院として、地域の医療機関からの積極的な紹介患者・救急搬送の受け入れに取り組んだことによる紹介率の増加、カンファレンスなどの定期開催や病院訪問、医師会との連携強化による開放型病床への登録医数の大幅な増加、また、周産期センターにおける緊急時対応体制の整備など、病病・病診連携に積極的に取り組んでいることから、年度計

画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ 福岡市民病院」

病院の情報発信や開放型登録医への訪問などにおいて地域の医療機関に対する効果的な手法を検討して取り組むとともに、新規医療機関を中心とした積極的な訪問の実施により、開放型病床への登録医数は大幅に増加しており、紹介率、逆紹介率などすべての指標において実績値が目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(3) 災害時等の対応」

災害発生に備えた訓練の実施や防災マニュアルの見直し、事業継続計画の策定を行い、メディカルラリーへの継続的な出場や優勝によるスキル向上に取り組むとともに、熊本地震においては、福岡市民病院の救援物資の提供、入院患者の搬送支援、延べ100人の医療支援班の派遣、福岡市立こども病院の延べ16人の医師の派遣、ヘリコプターや救急車による救急搬送患者の受入れ等を迅速かつ効率的に行い、また、震災支援のために熊本市市民病院から看護師9人の受入れを行うなど、市立病院としての役割を十分に果たしていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「2-(1) 患者サービスの向上 ア 福岡市立こども病院」

退院時アンケートの結果等を踏まえ、西鉄バスの増便や自動販売機の設置など、さまざまな患者サービス向上の取組を行うとともに、療育相談窓口の設置による相談業務の強化やホームページでの24時間外来診療予約の一部試行による患者の利便性の向上を図り、また、国際医療支援センターを開設し、外国人患者の円滑な受入体制の整備を進めていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「2-(1) 患者サービスの向上 イ 福岡市民病院」

外来の待ち時間の短縮や待合スペースの充実を図り、入院ベッドの更新などによる療養環境の整備に取り組み、入院患者満足度調査の平均点は高い点数を維持している。また、病院指標の新規作成及び公開により、患者サービスを含む医療の質の向上に向けて日々改善を行っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ア 福岡市立こども病院」

医療情報室の設置による研究体制の充実や、看護学生等を対象としたインターシップ及び病院説明会の開催による人材確保に努め、新人看護師職員向けの研修、職員の資格取得の奨励、認定看護師等資格取得支援制度に基づく支援の実施によりスタッフの専門性の向上を図るとともに、勤務体制の見直し及び院内保育所の時間の延長など、職員の福利厚生者の充実にも取組み、また、院内研修においては、外部講師の活用を図りながら、接遇・感染対策・防災・メンタルヘルスなど多岐に渡る研修を実施し、外国人患者の円滑な受入れのための研修等も実施されていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(1) 病院スタッフの確保と教育・研修 イ 福岡市民病院」

神経内科医(脳血管内治療専門医)1人, 薬剤師2人, 臨床検査技師1人の増員により高度専門医療の充実を図るとともに, 7対1看護体制を確保するための看護師の増員など人材確保に努めており, また, ワーク・ライフ・バランス推進委員会の取組により, 年休取得率も向上し, 新規採用職員を対象とした採用研修の実施や, 全職員に対する複数の教育研修の実施など院内研修の充実を図っており, 認定看護師等資格取得支援制度の利用促進による認定看護師の資格取得者も多く, スタッフの専門性向上に努めていることから, 年度計画を上回って実施していると判断されるため, 「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 ア 福岡市立こども病院」

感染対策における連携強化や, 研修の実施による医療安全対策の徹底, クリニカルパスの電子化やその活用により患者中心の医療の実践のためのインフォームド・コンセントの徹底も図られており, 患児の発達サポートの継続的な活動や治験管理室の設置など, 安全・安心な医療を提供するための体制整備に取り組んでいることから, 年度計画を上回って実施していると判断されるため, 「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 イ 福岡市民病院」

環境ラウンド等による院内感染防止対策の徹底を図り, インシデント報告システムの改修, RRSの基準の明確化や院内ルールの周知による件数の増加, クリニカルパスの活用や院内急変症例等の多職種でのカンファレンスの開始, ホームページを活用した治療内容の可視化に努めるとともに, 薬剤管理指導・栄養食事指導件数の実績値が目標値を上回ったことなどから, 年度計画を上回って実施していると判断されるため, 「評価4」とする。

②その他考慮すべき事項

特になし。

評価にあたっての意見, 指摘等

- ・日本で初めての川崎病センターの設置はオリジナリティーがある。
- ・こども病院の入院単価, 外来患者数, 救急搬送件数は, 年度目標を大幅に上回っている。
- ・一部の実績値が目標値に達成されていない場合においても, 経営が大幅に改善されているなどの点を鑑みると, 評価を上げることは妥当。
- ・市民病院は, 最先端の医療技術を導入されている。
- ・市民病院のメディカルラリーでの4回の優勝はすばらしい実績。
- ・市民病院の病院指標の作成及び公表は評価すべき取組である。
- ・市民病院の認定看護師の資格取得者数が多く, ケアの質の向上に貢献している。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

理事会の決定方針に沿った運営を行うとともに、両病院とも院長のリーダーシップの下、機動性が高く、自律性を発揮した病院経営を行っており、年度計画を順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進ん でいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3~5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウエイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 自律性・機動性の高い運営管理体制 の充実	1	1			1		
2 事務部門等の専門性の向上	1	1			1		
3 意欲を引き出す人事・給与制度等 の導入	1	1			1		
合 計	3	3			3		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価
特になし。

②その他考慮すべき事項
特になし。

評価にあたっての意見, 指摘等

特になし。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

様々な増収対策や費用削減に取り組んだ結果、市立病院機構全体で当期純利益を確保し、経常収支比率は前年度を上回るなど、年度計画を順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進ん でいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3~5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウエイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 経営基盤の強化	2	3			3		
2 収支改善	4	8		2	6		
合 計	6	11		2	9		

評価判断理由

- ① 特筆すべき小項目評価
「2-(1) 増収 ア 福岡市立こども病院」
効率的な病床管理による病床利用率の向上を図り、集中治療系病床の再編などにより重症患者の円滑な受入れに取り組むとともに、人員体制の整備などによる施設基準の取得などの増収対策により、入院収益が前年度比10億円の増となったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
- ②その他考慮すべき事項
特になし。

評価にあたっての意見、指摘等

・九州初のMERSの疑似症例患者の受入れや、熊本地震の対応、公立病院経営改革事例集での事例紹介とそれに伴う表彰を受けている点などを評価したい。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

福岡市立こども病院においては、重症度の高い症例の円滑な受入体制の整備を進めており、福岡市民病院においては、高度専門医療の更なる充実により当期純利益を確保するなど、年度計画を順調に実施している。

	S	A	B	C	D
評価結果	特筆すべき進捗状況にある	計画どおり進んでいる	おおむね計画どおり進んでいる	やや遅れている	重大な改善すべき事項がある

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3~5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項目	評価項目数	ウェイトを考慮した項目数	小項目評価				
			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1 新病院の整備及び運営に関する取組	1	2	2				
2 福岡市民病院の経営改善の取組	1	2			2		
合計	2	4	2		2		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

「1 新病院の整備及び運営に関する取組」

運動器センターの新設による医療機能の充実や医療従事者の確保による診療体制の構築が着実に図られており、この2年余りでフル稼働に近い状態にまで至っている。また、収支面では効率的な病床管理等により黒字化を果たすなど、短期間で経営の健全化が図られたことを高く評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。

②その他考慮すべき事項

特になし。

評価にあたっての意見, 指摘等

・新病院へ移転後、経営の回復を始め、救急患者の受入れや人材確保の取組など、広域的なこども病院として発展してきている。

(2)小項目評価 別紙のとおり